

## ■効果の見える治水事業

### 徳島県 明神川 総合流域防災事業



徳島県東部県土整備局 副局長 あきやま しゅういち  
秋山 修一

○事業概要 明神川は、鳴門市北部に位置し、阿讃山脈の東端を源とし小鳴門海峡へと流域面積2.9km<sup>2</sup>、流路延長約3kmの二級河川です。

明神川流域においては、平成元年8月洪水及び平成2年9月洪水など浸水被害が発生していることから、平成3年度から河川改修事業を進めています。

明神川の下流部は平地が開け、浸水被害が発生しやすい地形となっている一方、国道11号が流域内を横断していることから宅地化が進んでおり治水安全度の向上が急務となっていました。

また、平成16年度は相次ぐ台風の影響により、鳴門市では甚大な浸水被害が発生、特に台風23号においては、明神川流域で床上37戸を含む75戸の浸水被害が発生し、早期改修を望む地元の声は以前にも増して強くなっていました。

現在、改修工事を鋭意推進しており、平成21年度に改修区間の河道整備を完成させ浸水被害の解消を図ります。

- 施行箇所 鳴門市瀬戸町
- 施行期間 平成3年度～平成21年度
- 施行内容 施行延長 L=1,665m  
河道掘削、護岸、樋門、橋梁等

### 位置図



H16.10.22 徳島新聞



鳴門市の浸水状況(平成16年台風23号)



護岸・河道掘削の整備完了状況

## ■「明神川の河川整備に期待すること」



徳島県鳴門市長 みづみ りつひこ  
泉 理彦

鳴門市は、徳島県の東北部に位置しており鳴門海峡をへだてて淡路島に對峙し、本州と結ぶ四国の東玄関をなしています。特に北部は瀬戸内海国立公園に指定され、北に播磨灘、東に紀伊水道をのぞみ、鳴門海峡の急流と逆巻く渦潮でその名を知られた景勝地であります。

明神川下流部の平地は、かつて、塩田がー帯に広がっていましたが、現在は区画整理により、住宅地や産業団地が整備されています。

明神川の名前は、川の近くにある「大元神社」の創立に関係します。大元神社は、安芸の国宮島(広島県)の厳島神社の分霊を祀ったもので、安芸の国から来た神様ということで、「安芸の神」と呼ばれ、後に「明神(あきのかみ)」になったと伝えられています。明神川上流部は、山間の水田地帯を流れ、大部分が三面張りのコンクリート水路で、農業用の水路として利用されています。中流部は、住宅地と主要地方道瀬戸撫養線に沿って穏やかに流れ、両岸はコンクリート護岸で整備されています。下流部は住宅地の間を流れ、小鳴門海峡に流れ込む汽水区間であり、シマイサキ、クサフグ等が生息しています。

明神川は、川幅が狭く、堤防が低いことから、大雨のたびに洪水被害が発生していました。特に甚大な被害が発生した平成16年の台風23号においては、床上浸水37戸、床下浸水38戸、合計75戸が被災しました。このため、治水事業の推進は、当市にとって最重要課題であることから、県におかれては総合流域防災事業による河川整備に、鋭意ご努力をいただいているところであります。このような現状において、市民の安心・安全を守るためには、住民の防災意識の高揚を図ることが大切であります。平成20年に作成した洪水ハザードマップを全戸に配布し、鳴門市ホームページにも掲載した啓発活動を行ってきました。今後も関連機関、消防団および自主防災組織との連携を強化し、ソフト対策の充実を図りたいと思います。

最後に、過去の災害のことを忘れることなく、のびのびいきいきと安心して暮らせるよう、笑顔とにぎわいあふれるまちづくりを目指し、尽力していききたいと思いますので、関係諸機関の皆様方には、今後ともご指導、ご協力をお願い申し上げます。



名勝・鳴門  
渦潮は全国的な名所であり、鳴門公園には多くの観光客が訪れる。



大元神社例祭  
みこしと屋台が激しく競り合う勇壮な秋まつり



鳴門市の浸水状況(平成16年台風23号)